

<b>第9回 第2分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所 第2分庁舎 2階 2-①会議室
日 時	平成17年10月26日 午後2時00分～午後4時00分	記録者	【学生補助員】 守田 竹前
		責任者	事務局 青柳
会議出席者：35名 傍聴者0名 （区民委員：30名 学識委員：2名 事務局：3名）			
<p>■配布資料</p> <p>①次第</p> <p>②第8回第2分科会会議録</p> <p>③生きがいについて</p> <p>④第2分科会 次回開催のお知らせ</p> <p>⑤新宿区区民意識調査（速報版）</p> <p>⑤団塊の世代の活用についての調査報告書（抜粋）</p> <p>⑥高齢者向け施設の事業概要</p> <p>■進行内容</p> <p>1 開会</p> <p>2 「生きがい」について</p> <p>3 グループ討議</p> <p>4 全体討議</p> <p>5 閉会</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：事務局</p> <p>1 開会</p> <p>○：定刻になりましたので会議を始めます。</p> <p>来年度から3年間を期間とした「新宿区高齢者保険福祉計画・第3期介護保険事業計画」の中間まとめが出来上がりました。それにもない、区では、現在地域説明会を開き、区民の方の意見も聞かせていただいています。この計画は、第2分科会の議論の土台にもなるので、分科会としても勉強会を開催しますのでぜひ参加ください。</p> <p>2 生きがいについて</p> <p>○：今日は生きがいについて検討します。まず、岩崎先生から資料2について説明していただきます。</p> <p>◎：前はゲストスピーカーを招いて、お話しを聞かせてもらいました。北嶋さんは、</p>			

NPOとしてパソコン教室を開いている方。熊谷さんは、80歳近くになってから、札幌から新宿に来て様々な活動をなさっている方。佐野さんは、100歳でとても健康に生活している方。第2分科会委員でもあります日坂さんは、高齢者クラブで活動をしている方です。4名の年齢を合わせると322歳、平均年齢80歳にもなりますが、皆さん元気に活動していることをお話いただきました。

さて、本日の検討課題ですが、世話人会での打合せ等もあわせて、少しお話させていただきます。

「行政の生きがい対策」という資料を見てください。図にあるように、生きがい対策は民間のものと行政のものに分けられます。そのうち特に行政のものについて、充実させるような提言がこの分科会でできないかということがあります。〈課題〉には、メニューは豊富にあるが知られていない、場所が遠い、参加するメンバーが限られているため参加しにくい雰囲気がある、という3つの課題が書かれています。

区が展開している施設としては〈例〉にあります。ことぶき館、いきがい館、清風園、元気館があります。少し雑駁な捉え方になりますが、ことぶき館は区内に20箇所程度あり、60歳以上の方が誰でも気軽に参加できる施設、いきがい館・清風園は気軽に参加できるメニューのほか、簡単な筋力トレーニング等の少し専門的な事業を展開している施設、元気館は本格的なトレーニング等が展開できる施設だと思います。これらの施設、事業について、最初にお話しましたような課題があると感じられている方が多いようです。

〈解決策案〉としては、①わかりやすい情報の提供、イラスト入りの簡単なパンフレット等を区民レベルで作るなど。②機能ごとに分かれる施設ではなく、身近な地域で包括的なサービスを提供する。プログラム等に工夫をこらして、時間帯を分けて様々な事業を提供するというのも考えられます。もちろんデメリットとしては、これまで利用していた方の、利用回数が少なくなることもあるかもしれません。③地域レベルで福祉課題を検討する場の設定。たとえば戸山団地には特に高齢者が多い、など地域ごとの課題についてその地域で解決するための場が欲しい、ということです。新宿区では「地域協議会」という場を設置しているということなので、これを活用するというのも考えられます。

2ページを見てください。対象者である高齢者にはどんな人がいるのかを図に整理してみました。横軸は、心配度つまり客観的に見た心配の度合い。縦軸は要援護度つまり介護度が高い・低いを表しています。左上から、「団塊の世代」「元気な人」「元気だが人嫌い」「心身機能低下で心配な人」と配置されています。

一つのポイントですが、「元気だが人嫌い」な方。今は心身ともに元気ですが、人との交流が苦手だったり、避ける傾向にある方が、その後心身の機能が低下してしまった場合、いろいろと心配な点がありますので、何か交流のきっかけ等をつかむ仕組みが必要ではないかと考えられます。

「団塊の世代」ですが、これからの高齢社会の中心になる人たちです。この方たちが、地域においてボランティア活動など、生きがいを感じてもらおうプログラムと一緒に考えていかなければいけません。「団塊の世代」の方の多くがこれまで地域とのつながりが少ないということを考えると、地域とのつながりを作るきっかけづくり、例えば「第二の成人式」といったもの、が必要ではないでしょうか。

「元気な人」ですが、人のお世話や仲間作りをする気持ちを強く持っていられるのではないのでしょうか。こういった方々にボランティア活動や、高齢者クラブ等の紹介、参加を募る仕組みを考えていかなければならないのではないのでしょうか。

「元気が人嫌い」の人たちは、一番対策が難しくポイントになる人たちでしょう。今はまだ精神面で一人を好みつつ身体的には健康な人もいます。しかし、これから身体的に健康を害しても一人でいることは心配な点もありますので、この方たちに合ったゆるやかな連携の仕方も考えていかなければならない点だと思います。

「心身機能低下で心配な人」についてですが、元気でないからといって「生きがい」がなくていいということではありません。それぞれの状態にあった「生きがい」を感じていただくことがまさに重要であり、これは極論ですが、豊かな気持ちで死を迎えられるような社会を新宿区で築いていくということが、最終的な目標なのかもしれません。

これから、生きがいを感じてもらえるシステムづくり、区の施策に何を提言するのか、団塊の世代にどう地域に関係してもらうのか、という3つの柱を元にグループの話し合いをしてください。説明は以上です。

○：事務局から、資料について説明いたします。

「新宿区区民意識調査」をごらんください。

区政への要望ですが、「高齢者福祉の充実」がトップにきています。ここ2～3年は「防犯・地域安全対策」が1番で、「高齢者福祉の充実」は2番だったのですが、1番に返り咲いています。

居住地域の満足度、新宿区に住んでいいと思っている点ですが、やはり「通勤・通学の便の良さ」が一番です。「高齢者などの福祉サービス」については、6割の区民の方が“どちらともいえない”と答えて、少し残念に感じます。

暮らしやすい地域にするために重要なものに「高齢者などの福祉サービス」が2番目に多くあげられた答えになっています。やはり「高齢者などの福祉サービス」は暮らしやすい地域の条件であると考えられます。

高齢者が地域活動に参加しやすくするために必要なこととして「活動に関する情報が得やすいこと」が2位、「活動が自宅の近くであること」が3位にきています。

43ページには、高齢者が安心して暮らしていくために必要な活動が載っていますが、こういう活動になら協力できる、という区民の声もあります。

次に団塊の世代のみなさんはどう思っているのでしょうか。東京都産業労働局が

2004年3月に出した「団塊の世代の活用についての調査報告書」があります。ここに東京に住んでいる、団塊の世代がどう思っているか知ることができると思います。

団塊の世代の9割が、健康に自信を持っています。また団塊の世代はいわゆる会社人間と思われがちですが、4割が自分の趣味や人間関係を大切にしています。

大企業などで働いている方は65歳で退職したいと思っていますが、中小企業の社員や会社経営者の方たちはより長く働きたいと思っています。

家族形態については、多くの方が将来は夫婦のみか一人暮らしになりそうだと思います。

一方、退職後は東京から脱出したいという意図を持つ人は多くありません。大多数の人が東京に住み続けたいと答えています。

市場の側面から団塊の世代を見ると、医療・健康、住宅、観光、子供や孫への支出、趣味、交流、学習、能力開発への関心が高く、この分野の市場の成長性が期待できます。今後は、余暇にお金を使いたいという傾向も見られます。

定年を迎えても、正社員として、またパート・嘱託として、あるいは独立開業して働きたいという答えが多いようです。

地域コミュニティへの参加という点については、現在は関係が希薄であるものの、退職後になったら考えてみたい、経験を生かして社会貢献したいという多数の意見があります。余暇も社会貢献もしていきたいと考えていることがデータから分かります。

なお、アンケートだけでなく、インタビューもしていて面白いことが書かれています。自由意見載っていますので参考にしてください。

また、先ほど岩崎先生からもお話のあった「ことぶき館」「いきがい館」「清風園」「元気館」の事業概要、利用状況等の資料も作りましたのであわせてご覧ください。

### 3 グループ討議

○：それでは、各班ごとにグループ討議を開始してください。

(各班に別れてグループ討議)

### 4 全体討議

(各班ごとの発表)

<1班>

(発表要旨)

・団塊の世代の取込み

(ラジオ体操に父親が同伴)

・少しずつ仲間づくりを続け、運営委員にもなってもらう。

(町会活動等にも参加してもらい、引っ張り込む)

・高齢者の方自身が地域の中で役に立つという意識が持てる活動の提供

- ：私は高齢者クラブの会長としてやってきたことを話しました。最近はお話や挨拶が交わされるようになります。町内会ですが、外部から入りやすいようにするために、若い人に運営・役員を任せてもいいと思います。サラリーマンの方にも参加していただいております、町内会の後に一緒に飲みに行ったりもできます。まず自分の隣に住む人と仲良くなれば、そこから外に誘ったりすることもできます。小学校の運動会にも、他者を引っ張りこむことです。そうすれば、誘った方も、この人の役に立てたと生きがいを感じられるでしょう。自分もおとぼり山で見守りをやっけて、ただ座っているだけであっても、役に立てているなど生きがいを感じることができます。ただ、昔遊びを教えるなどでは、生きがいには足りないのです。引きこもりの方については、無理に外に出てもらおうとしても良くありません。ただ、近所の人があの人はいつも夜の9時には出かけるなどと知っていて、お帰りを確認したりもしています。こういう見守りの仕方もあるのではないのでしょうか。

<2班>

(発表要旨)

・ことぶき館の利用の仕方

メンバーの固定に対し、職員側の働きかけがない。

・団塊の世代として

生涯現役で趣味を活かしたい。戸山の団地まつりをネットワークにより継続できれば良い。

・団地の集会室をコミュニティの拠点にできるかも。区有地も活用してもらいたい

・情報の使い方

口コミ情報はやはり有効、そういう意味でもネットワークや拠点は大切である。

- ：ことぶき館の利用の仕方について話しができました。場所によっては、メンバーが固定されていて使いにくいという意見がありました。ことぶき館が主体となって何かをコーディネートすることはあまり無い、ということです。

百人町の団地祭りについて話しがありました。70歳代くらいの方が中心となり盛大に行われているようです。趣味の感覚で参加できればと思います。もちろん、コーディネートする力を持っている方は、どんどん人のネットワークを作ってほしいです。また、団地には集会場があり、1100世帯に1つという計算になります。こういう所で展示会なども開けます。しかし、団地以外の地域には、こうした集会場がないのでコミュニケーションがとりにくいと思います。たとえば地域の区有地が売りに出されることがあり、集会場に使えるかと思えます。小学校の空き教室などでもいいのですが、やはり地域の集会場を作ると、ネットワークが出来て生きがいを持つことにもつながるのではと思います。

また、年寄りには活字を読むことに抵抗を感じることがあります。区報だけでなく、集

会場などで人づてに口頭で伝えることも必要だと感じました。

<3班>

(発表要旨)

・高齢者

元気だが人嫌いな人への働きかけとして

①根気が必要 1～2年かけ

(地域活動のおさそいを何度もしてみる)

・団塊の世代対策

①地域のイベントを日曜等に開催する

②自治会長も若返りが必要

③家族の協力を呼びかけ

- ：元気だが人嫌いの方たちに外に出てもらうには、根気も必要です。今日なにか言って明日外出してもらえる、ということはありません。地域のイベントがあれば、出てみましょうと声をかけることもできます。出てもらえないときにも、次回はどうぞとといったフォローが必要になります。

団塊の世代をどう地域に参加させるかということについてですが、日曜日など団塊の世代が出てきやすい日にイベントをする、自治会長を若い人にする、などが考えられます。今までのように、自治会の長が年寄りで、働くのは若い人、という構図のままでは良くありません。また、家族の人が、参加してみたら？と声をかけるなどのサポートも必要になります。

<4・6班>

(発表要旨)

・生きがい

自由の時間が出来て考えはじめた。

知的障害の子を育てる中で、高齢者の方も地域の中で生きがいを見つけられるのでは。

・コンビニなどにも

情報誌を設置するなど工夫

・団塊の世代

仕事中から地域とのかかわりが持てるようにする必要がある。

NPOや社会貢献活動を踏まえた財政負担

・労働や趣味、ボランティアの提供、イベントの紹介、広報「しんじゆく」への掲載、仲間づくりの支援

- ：生きがいについてですが、自分の時間ができて、どう生きるか考えている最中でもあります。知的障害を持つお子さんを育てた方が言っていました、障害者でも社会に参

加できます。高齢者は、花一輪でも咲かそう、とすることです。

地域の見守りも必要です。家の中にいる人にどうやって外に出てきてもらうかについてですが、区報やチラシなどには目を通してくれないのではないのでしょうか。地域が受け皿になって、知らせることが必要です。コンビニなどでも、読んで楽しくなるようなお知らせのチラシを置いたりもできます。

団塊の世代に地域に参加してもらうには、働いている時分から地域へ誘うことが必要だと思います。また、賃金などもらえなくても地域に参加したいと思っている方もいますが、何かを始めるための資金が無くて困っている方もいます。

これからの社会では、高齢者が健康に過ごし、老いても収入があり自分で生活でき、ボランティアや趣味もできて、他人のことも考えられ、ライフプランを作るための講座などが開かれ、本を読んでヒントを得たりすることもできる方が良い、そういう意見が出ました。

<5班>

<5班>

・生きがい

「働きがい」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」等、多様に捉えること。  
様々なメニューづくりと地域活用の拠点及びネットワークづくりが肝要

↓

身近な場として「ことぶき館」「社会教育会館」の活用が考えられる。

\* 運営に関してもっと区民の声の反映を  
世代間交流のプログラムなど。

「高齢者の文化」を真剣に話し合う場を公的につくる必要がある。

- : 生きがいをどうとらえるかですが、働きがい、生涯学習、スポーツやレクリエーションなど、多様なものととらえた方がいいでしょう。団塊の世代にも様々な方がいますので、区民も行政も様々な対策を考えるべきです。そのためにも、地域のネットワークを作り、活動の拠点を持つことが必要になると思います。現在ある、ことぶき館や社会教育会館などを利用したいです。ことぶき館は一部の人には活用されていますが、他の人には十分活用されていないようです。使い方にも検討が必要です。また、児童館と図書館が併設されているような施設があるので、高齢者が子どもたちに何がしてあげられる仕組みを行政でも作ってほしい、そのような提言ができればと思います。

これからは団塊の世代の文化を創っていきたいです。今までは行政と区民が話す機会がありませんでした。これからは、十分な話し合いと情報提供で地域の活動が生まれれば良いと思います。

◎ : 各班から、ポイントになる話がありましたが、団塊の世代の代表である成富先生か

らまとめをお願いします。

◎：今日は、今まで以上に本質的な話しをしたと思います。前回の会議では、団塊の世代にあたる人は私だけでしたので、団塊の世代の声が会議に反映されないのではと思いました。そうした不安もあって、今回の団塊の世代の思いを明らかにする資料を作りました。団塊の世代は、今、最後のご奉公というわけでもないのですが、仕事が忙しかったり、家庭でも大変な時期でとても忙しいと思います。従ってこういった会議にもなかなか出席できないのかもしれませんが。今日は少しお仲間がいてうれしいのですが。団塊の世代だけの問題ではないのですが、特に今後多数の方が地域に帰ってくるということですので、良く考えていく必要があると思います。

生きがいとは、人それぞれで多様なものだとしか言いようがありません。それぞれの班の発表でもそれは表れていましたが、特に5班の発表はすぐれた整理になっていたと思いました。

生きがいとは、働くことであり、学ぶことであり、あるいは教えることであり、趣味やスポーツであり、起業したい人、地域に貢献したい人・・・人それぞれです。

人間にとって重要なことは、自分の居場所を見つけることです。働いている間は職場、それが終われば家族ということになります。自分を受け入れてくれる環境をもつということが非常に大事ですが、年を経ることにより属している場所がなくなることもあります。そうなったときに、あらたな所属を確保することも考えなければなりません。

ある方が言うには、趣味は5つないと老後は暮らせないそうです。私は趣味が2つくらいしかないので、趣味を増やさなければいけないのかなと思っていますが、趣味だけでいいのでしょうか。自分を活かすことこそ、生きがいであり、それには、趣味だけでなく、何か役割を持つこと、人の役に立つことが生きがいになります。

地域の生きがいの拠点はどうすればいいのでしょうか。行政というものは、何かを造ってそれで終わりにしてしまう傾向があります。地域に、「身近な」ところに、必要なものは何かで考えていければと思います。

前回のゲストスピーカーのお話に、「切手切り」のボランティアから入っていったというお話がありました。「切手切り」時代は難しくない作業ですし、やっている最中に話をするができるということで、取っ掛かりとしてはいい事業なのかもしれません。こういった事業もまた重要です。

団塊の世代は、自分たちがまだ高齢者だとは思っていません。団塊の世代のプロフェッショナルな高い知識や能力を持っています。団塊の世代の意識にあわせて、ちいきでその力を活かせる仕組みも考えていきましょう。

今回の資料には、参考になるお話が多く書かれているので、読んでいただきたいと思います。



5 閉会

○：それでは、本日はこれで終了します。

<次回日程>

11月12日(土) 午前10時～12時

新宿区役所第二分庁舎 1-⑦会議室